

【課題】

① Moral Differences Discussion/ Coexistence of Old and Modern

Write what you found throughout the sessions.

I could find many differences between Italian and Japanese in this discussion. First, Italian students have many kind of opinion in the same answer. It was very interesting. Meanwhile, Japanese students have a one reason for some answer. I think that Japanese people have stereotypes as to moral. Secondly, Italian students show them true voice whatever situation they may face. I was really surprised. In Japan, frequently we don't say true thing, because Japanese think that saying about truth don't scruple to hurt somebody. This is an instructive discussion for me. I could learn about Italian's way of thinking as moral.

(3 年男子)

② どのような議論が生じたか。

自分がうまく伝えられたこと、伝えられなかったこと。

まず、全ての議題において、イタリア人と日本人の考え方に大きな差があることがわかった。文化の違い、と言ってしまうとそれまでだが我々としても驚かされることが多かった。ただ、必ずどちらもそれぞれの意見がしっかりとあって、納得することはできた。どちらが正しいとは一概に言えないものも多く、議論としては有意義であったのではないかと思う。時間の都合上完璧ではなかったものの、日本の慣習について改めて考えさせられ、イタリアの文化についてもよく知れた時間であったと思う。自分としてももう少し発言して意見を述べることでよかった。(3 年男子)

③ イタリアの家庭生活、学校生活、教育、文化、社会で気が付いたこと。

- イタリア人は本当に何かに関して熱心で自己主張をちゃんとするのに、時間やルールに関してゆるくのんびりしていて優しい人が多いなと全体的に感じました。例えば、学校のチャイムが鳴ってから歩いて戻り始めて先生はチェックしなかったり、体育でただ歌っているだけの授業があったりしてとても驚きました。しかし日本と違って授業に強制されている感じがなく、ゆるくてもみんな寝たり内職したりせずに積極的に授業に参加して質問し、感心しました。そして先生との距離も近かったと思います。(2 年女子)

- ミラノなどの散策のときに気になったのが、ホームレスの多さです。

私のパートナーと難民問題の話をしたときに、彼女は、「ドイツなどの大国が難民をたくさん受け入れているように感じられるが、イタリアのような弱い国が難民を押し付けられている。自分の国に余裕があれば構わないが、イタリアはただでさえ職がない国民が多いのに、難民を受け入れるのは大変だし、家も家族もないホームレスもいるのに難民は携帯電話もあるし食料も支給されるし、優先するものが違うのではないか」という話をしていました。日本では難民の受け入れもあまりされておらず、話を聞いたときにはピンときていなかったのですが、実際に街へ出てみると物乞いをしている人が本当に多くて、彼女の言っていたことがとてもしっくりきました。(2年女子)

- イタリア人は家族のことをとても大切にしていることに気づきました。夜ご飯は家族そろって毎日食べるのがほとんどで、誰かの帰りが遅くなるとその人のことを待っていました。また、毎週祖父母の家を訪ねるようで、近所に住んでいることもあり、とても仲がいい様子でした。他にも近くに住む親戚とはよく連絡をとっているようでした。家族内での会話を大事にしたり、思いやりをもってお互い協力し、時間を大切に過ごしたり、私がお世話になったホストファミリーは本当に素敵で、見習いたいと思いました。(2年女子)

④ 授業について どのような様子か。

授業の様子としては生徒が授業を進めていたり、積極的に発言している様子を目の当たりにして、日本との違いが感じられた。プレゼンテーションなども日常的に行われていてとても驚いた。イタリアでは生徒中心に進めるというスタイルが多かったように感じた。日本では正解を正しく答えられる事が重んじられているけれど、イタリアではしっかりと自分の意見を持つことが大切にされているようだ。見習わないといけないと思った。また、私たちのために英語で授業をしてくれた時も誰一人文句を言わずに協力してくれ、その対応力に驚かせられた。イタリアの生徒は、自分が想像していたよりもまじめで自主的に動いていたような気がする。とても刺激的だった。特に体育の授業は、普段私たちが受けているものとは全く違ったので新鮮だった。日本の体育の授業ではなかなかやらないものを体験できてうれしかった。(2年女子)

⑤ 今回の交換について

できたこと(やっておいてよかったこと)、できなかったこと(やっておくべきだったこと)など。

- 今回の交換を通して日本の悪いところ、魅力両方見えたことはもちろんですが、なにしろイタリアでたくさんかけがえのない友達を作れたことが本当に良かったことです。最初は英語で話さなきゃ！という気持ちばかりが強くて、逆にあまりうまく会話が進まなかったり、事務的なことだけしか会話をしなかったりしていました。しかし、みんなで冗談や面白いことを言いあって大声で笑えるようになったり、お互い興味を持っていたことを長い時間話し合えるようになったりと、最後にはイタリアで初めて会った子たちともお別れのときは涙がでるほど仲良くなりました。今でもほとんどの子とは SNS で繋がりが、何人かとはメッセージのやりとりを続けています。

また、ホストファミリーというもう一つの家族を持てたこと、もう一つの帰るべき場所を持てたことは素晴らしいことだと思います。ホストファミリーとは全く言語が通じない中でも愛情を感じ、絆を結べて、本当に愛情は国境を超えるのだなと実感することができました。そしてずっと一緒にいてくれたホストのエカテリーナ、彼女とは日本に帰ってからも悩みを打ち明けあったり、お互いをからかって笑いあったり、本当に言語の壁を乗り越えて姉妹のようになったと思います。文化の交流が目的の交換留学ですが、それより絆の面においてとても得ることが大きかったと思いました。(2 年女子)

- 以前アメリカに 4 年間住んでいましたが、そのころはまだ小さく日本のこともあまり知らなかったときなので異文化云々を考えたことがありませんでした。この交換を通じて実質初めて日本と外国のものの考え方や見方の違いを実感することができ、何がどうなってこの差異を生んでいるのか興味が沸きました。英語は人並み以上できると自負しているので、この能力を使ってもっと他国の文化について触れてみたいと思いました。(3 年男子)

- ホストファミリーの中で英語を喋れるのはパートナーだけでした。また私も英語がうまいわけではないので、何か伝えるときにたくさん失敗しました。行く前にもっとイタリア語を勉強しておくべきだったと思います。ですが、日がたつにつれちょっとずつ聞き取れる単語が多くなってきたのは良かったです。

イタリアの観光という意味では旅行で来た方が効率的に様々な場所に行くことができたと思いますが、交換留学で来たからこそイタリアの家族の温かさを知れたし、同年代の友達ができたりと普通ではなかなか出来ない体験ができたのではないかと思います。楽しすぎて 10 日間だけなのに、すっかり体がなじんでしまったような感覚になりました。今もイタリアに行きたいなと思っているので、それまでにイタリア語を勉強しようと考えています。(2 年女子)